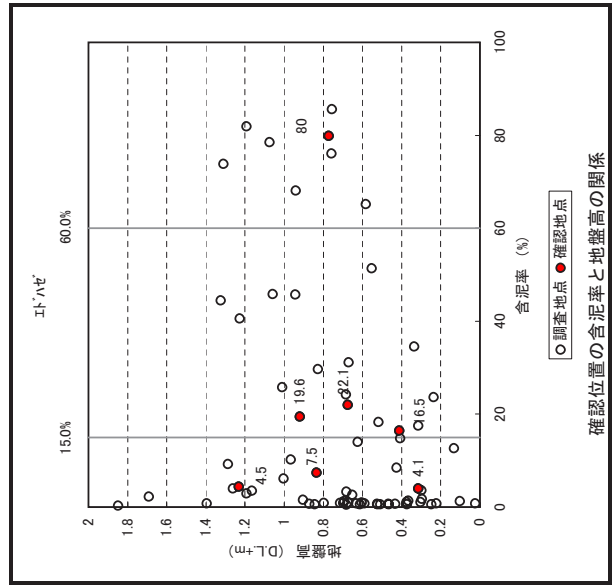


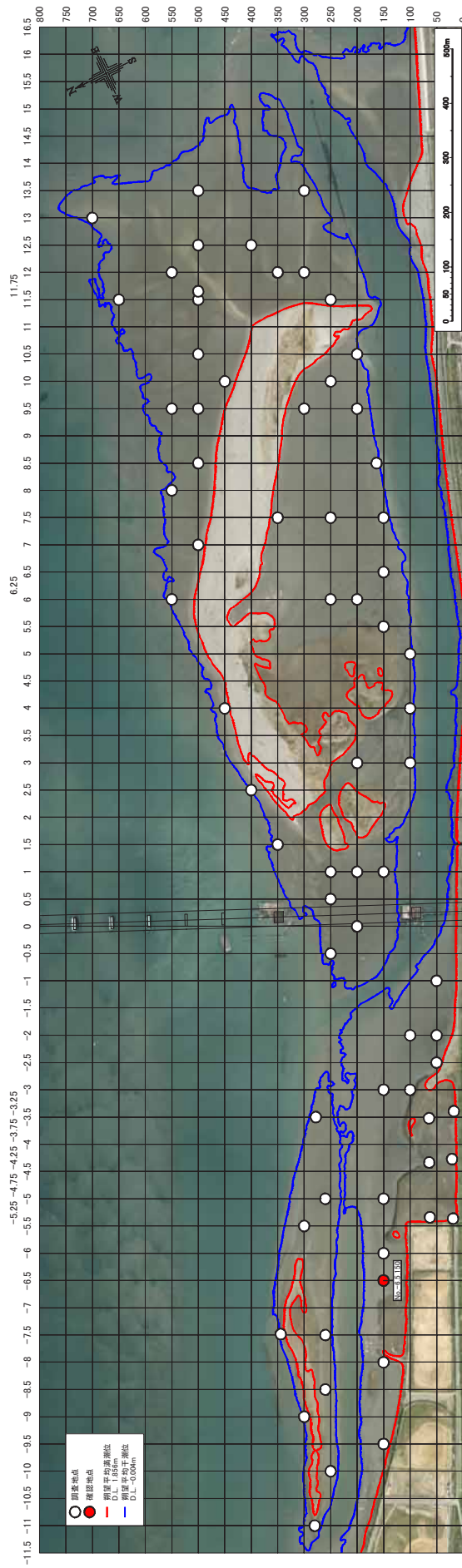
種名	エドハゼ
目科名	スズキ目ハゼ科
学名	<i>Gymnogobius macrognathos</i>
確認状況	確認地点数：7地点 確認個体数：28個体
地盤高 (D.L.m)	0.313
含泥率 (%)	4.1
表層微細粒度 (μm)	D50 : 37.6
	分布概要 383.4
確認状況及び確認位置の底質等	国内では宮城県～三重県、兵庫県、大分県、宮城県、国外では沿海州に分布する。ただし国内産と国外産との種の異同については検討が必要である。有機的汚濁の少ない清浄な河口干潟や汽水湖に生息する。砂質の場所にもみられるが、採集時には驚くと自ら砂泥に潜る様子が観察される。産卵もスナモグリ類の生息孔内で行うと考えられるが詳しい生息については不明。
確認位置の底質等	県内の生息状況 四国では徳島県吉野川河口域のみから記録されているが、今後調査が進めば瀬戸内海側の諸河口域から確認される可能性がある。 吉野川河口域における分布状況はヒモハゼとほぼ同様で、両種は同所的に採集されることが多い。生息数はヒモハゼ、ニクハゼより少ない。
希少性	環境省RDB 絶滅危惧 I B類 徳島RDB 絶滅危惧 I類 IWF Japan —

No.	地点名	個体数	地点名	個体数
1	No. 6.5.150	17		
2	No. 9.5.200	4		
3	No. 6.0.250	2		
4	No. 3.5.280	2		
5	No. 10.5.200	1		
6	No. 5.0.150	1		
7	No. 6.0.150	1		

確認個体数 (上位20地点)

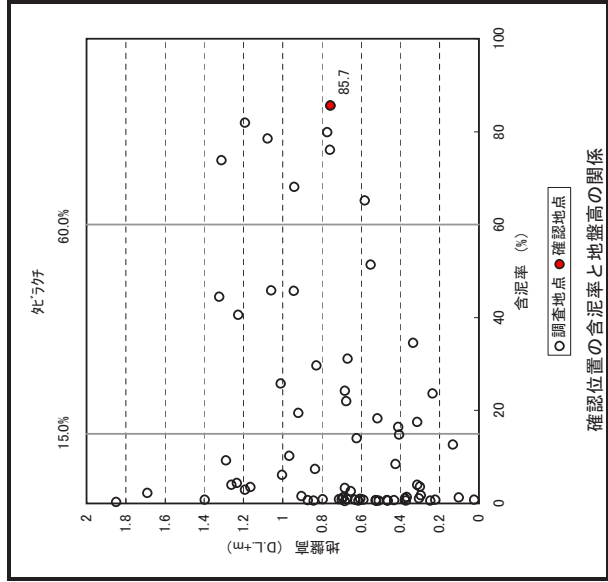


エドハゼの確認状況 (7月)
 <航空写真 撮影日：平成18年4月1日>



種名	タビラクチ
目科名	スズキ目ハゼ科
学名	<i>Apoer yptodon punctatus</i>
確認状況	確認地点数：1地点 確認個体数：1個体
地盤高(D.L.m)	0.756
含泥率(%)	85.7
表層微細粒度(μ m)	D50：23.6
分布概要	
和歌山県以西の本州、四国、九州に散発的に分布する。有明海とその周辺は主要な産地となっているが、他地域における生息数は少ないようである。国外では朝鮮半島と中国に分布する。	
県内の生息状況	
四国では香川県と徳島県だけでなく知られている。近隣では、徳島県とは紀伊水道を挟んで対岸の和歌山県では加茂川河口と田辺市内之浦からの記録がある。	
徳島県における生息確認地は吉野川河口域の住吉干潟のみで、生息数は少なく、まれに採捕される程度である。同じ紀伊水道岸の勝浦川や那賀川河口域にも生息の可能性はあると思われるので、注意する必要がある。	
環境省RDB	絶滅危惧ⅠB類
徳島RDB	絶滅危惧Ⅰ類
WWF Japan	—
希少性	—

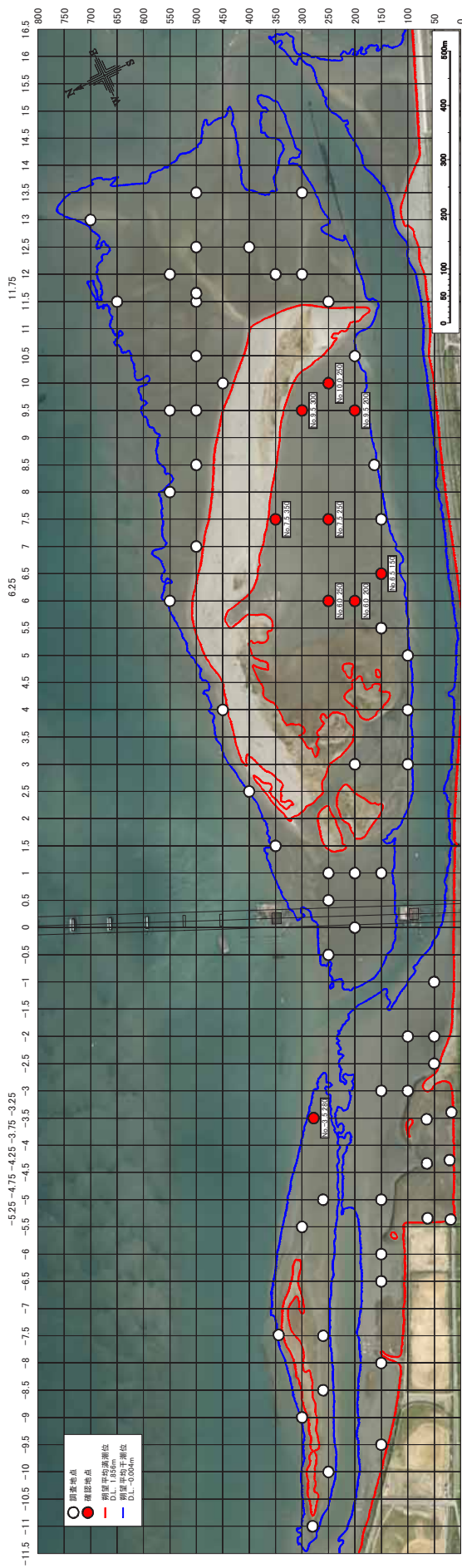
No.	1	地点名	No. 6.5-150	個体数	1	地点名	個体数
確認個体数(上位20地点)							



確認位置の含泥率と地盤高の関係

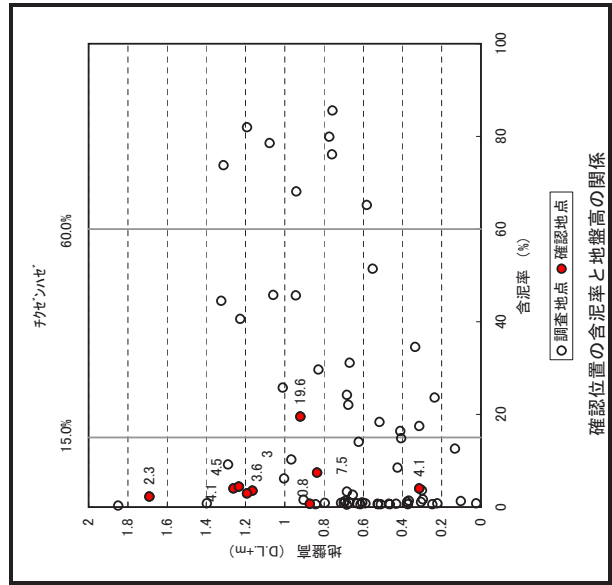
タビラクチの確認状況(7月)

<航空写真 撮影日：平成18年4月1日>

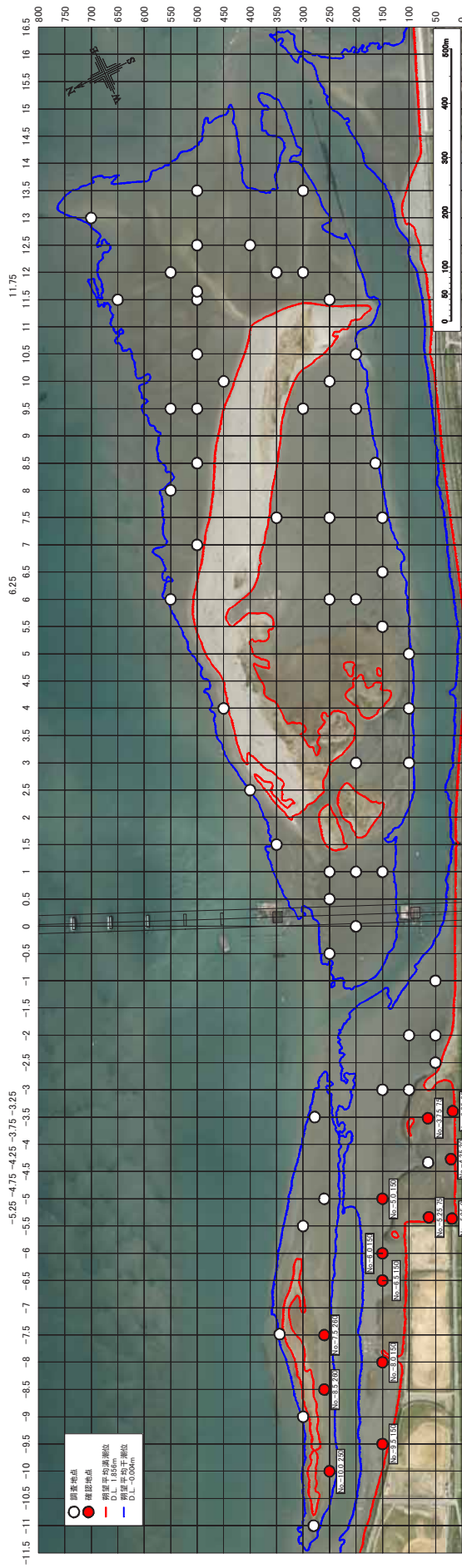


種名	チクゼンハゼ
目科名	スズキ目ハゼ科
学名	<i>Gymnogobius uchidai</i>
確認地点数	9地点
確認個体数	185個体
地盤高 (D.L. m)	0.313
含泥率 (%)	0.8
表層微細粒度 (μm)	D50: 263.0
	400.0
確認状況	分布概要 日本固有種で、北海道有珠湾、千葉県、兵庫県、徳島県、愛媛県、徳島県、福岡県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県に分布する。 有機的汚濁の少ない清浄な河口干潟や前浜干潟の砂底に生息する。ニホンスナモグリ等の生息域に隣れていることが多い。産卵もスナモグリ類の生息域内で行うと考えられるが、詳しい生息域については不明。エドハゼに似るが一般的に体サイズが一回り小さく、下顎下面にヒゲ状突起を有する。また、頭部感覚管の分布状況、体側や尾鰭の斑紋等もエドハゼと異なる。 県内の生息状況 四国では、愛媛県と徳島県から記録されている。 徳島県では吉野川その他、勝浦川からの文献もあるが、採集個体数が非常に多く、多産を誤同定した可能性もあるため再調査が必要である。 吉野川河口域では吉野川橋上流の砂質干潟に分布が限定されており、個体数もエドハゼよりさらに少ない。これは、本種が嗜好する底質の状態と関係している可能性がある。
希少性	絶滅危惧ⅠB類
環境省RDB	絶滅危惧Ⅰ類
徳島RDB	—
WWF Japan	—

No.	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
1	No.10.0.250	49			
2	No.6.0.250	30			
3	No.9.5.300	27			
4	No.7.5.250	27			
5	No.6.0.200	25			
6	No.6.5.150	10			
7	No.9.5.200	7			
8	No.7.5.350	5			
9	No.-3.5.280	5			

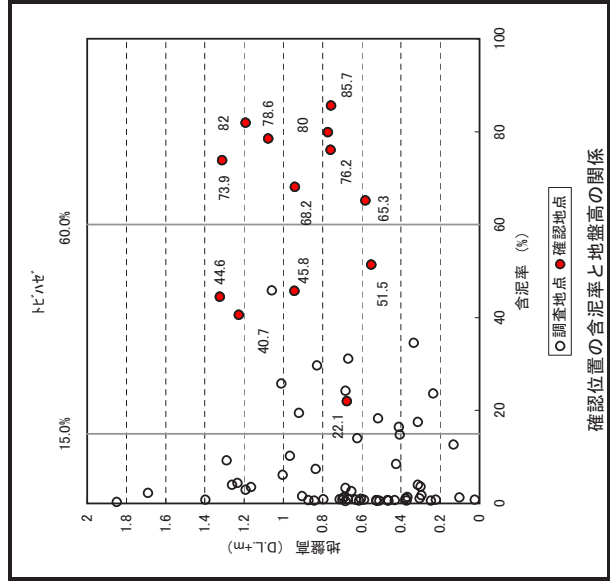


チクゼンハゼの確認状況 (7月)
 <航空写真 撮影日: 平成18年4月1日>

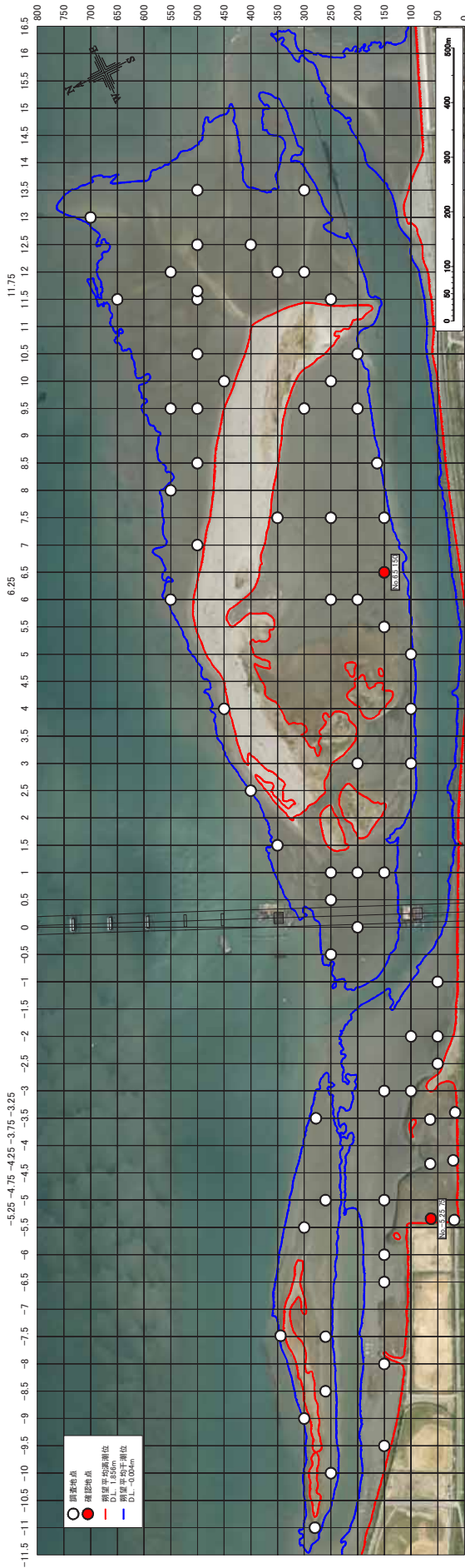


確認状況及び確認位置の底質等	種名 トビハゼ
	目科名 スズキ目ハゼ科
	学名 <i>Periothaimus modestus</i>
	確認地点数：13地点 確認個体数：33個体
	地盤高(D.L.m) 0.551
	含泥率(%) 22.1
	表層微細粒度(μm) D50：20.5
	分布概要 ~ 1.323 ~ 85.7 ~ 481.5
	東京湾以西の本州、四国、九州から沖縄まで分布し、国外では朝鮮半島、中国、台湾に分布する。 泥または砂や礫の混じった泥質干潟に生息する。春～秋の干潮時には干潟表面で活発に活動し、5月下旬～8月中旬に巣穴の中に産卵する。冬は巣穴の中で越冬する。
	県内の生息状況 四国では4県とも分布する。 徳島県では紀伊水道側の吉野川（旧吉野川を含む）、勝浦川、那賀川の河口干潟に生息する。ただし旧吉野川での生息は少ない。また、國瀨川の法花大橋～大野大橋の間でもまれに見られることがあるが、幼魚のみで成魚は生息しない。橋湾岸など、かつては紀伊水道に面した内湾や河口付近で広く生息していたと考えられるが、現在では港湾の整備や埋立、淡水化するための水門の設置等によって生息地となる干潟そのものが失われている。
希少性	地域個体群 徳島RDB 環境省RDB WWF Japan 絶滅危惧Ⅱ類 —

No.	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
1	No.-8.0.150	7	11	No.-5.25_0	1
2	No.-6.0.150	5	12	No.-5.25.75	1
3	No.-9.5.150	5	13	No.-7.5.260	1
4	No.-6.5.150	4			
5	No.-5.0.150	2			
6	No.-8.5.260	2			
7	No.-10.0.250	2			
8	No.-3.25.20	1			
9	No.-3.75.75	1			
10	No.-4.25.20	1			



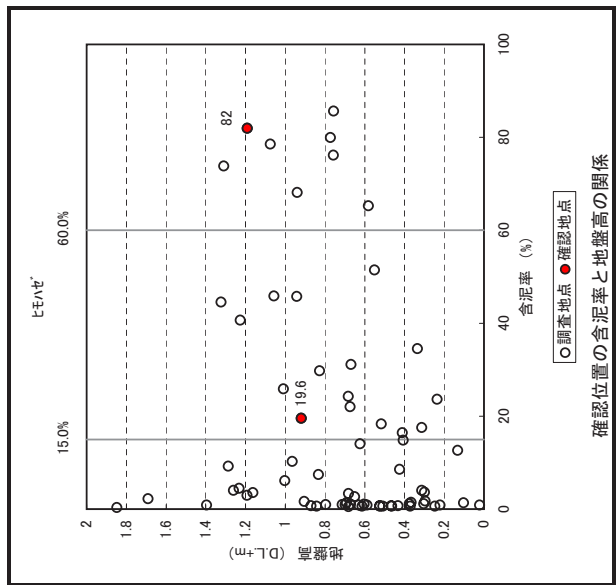
トビハゼの確認状況 (7月)
 <航空写真 撮影日：平成18年4月1日>



種名	ヒモハゼ
目科名	スズキ目ハゼ科
学名	<i>Eutaenichthys gilli</i>
確認状況	確認地点数：2地点 確認個体数：2個体
地盤高 (D.L.m)	~ 1.191
含泥率 (%)	~ 82.0
表層微細粒度 (μm)	D50 : ~ 28.2 分布概要
確認状況及び確認位置の底質等	国内では青森県～西表島、国外では朝鮮半島、渤海、黄海に生息する。砂質を多く好む汚濁の少ない清浄な河口干潟に生息する。ヨコヤアナジャコ等の生息孔に隠れているか、砂に潜っていることが多く、まれに水面近くを游泳する姿を見かける。生活史の詳細については不明であるが、徳島県での産卵期は5～8月頃とされ、寿命は2年以上と考えられている。動物プランクトンや珪藻類、小型の底生動物を食べる。 四国では各県から知られているが、砂質の前浜干が発達しやすい瀬戸内海側に多い。徳島県では吉野川、旧吉野川の河口域から確認されている。しかし、吉野川での分布は鮎喰副合流部より下流に、旧吉野川の分布は河口堰下流に限られており、阿河川共分布域は狭い。ただし、吉野川河口域での生息数は多く、四国最大級の生息地となっている。
希少性	環真省RDB 該当なし 徳島RDB 準絶滅危惧 WWF Japan -

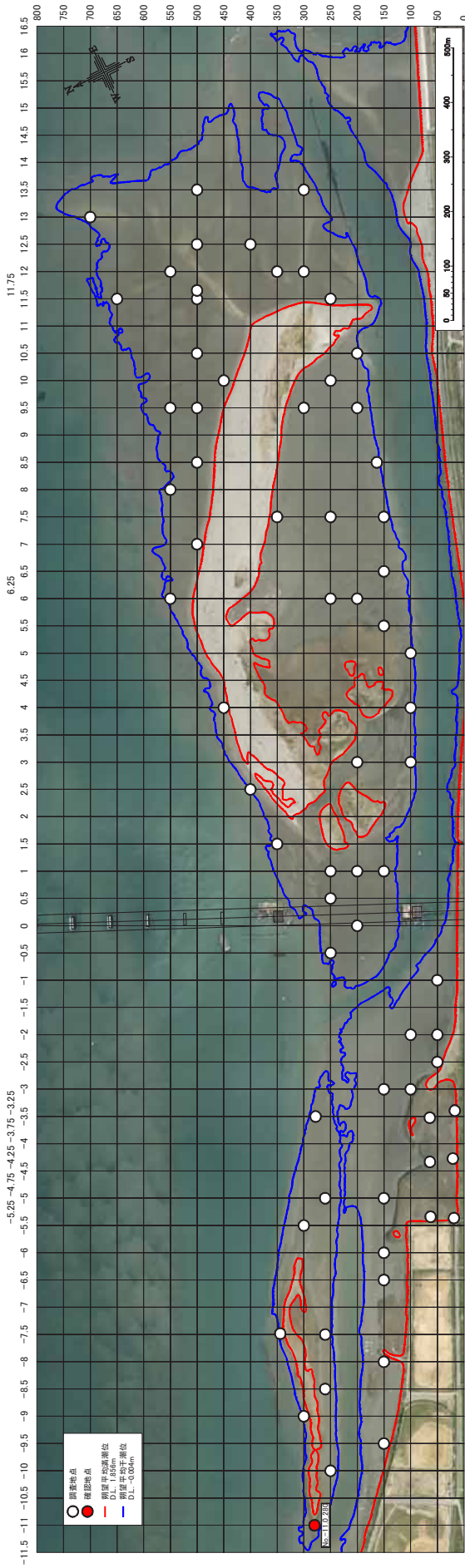
No.	地点名	個体数	地点名	個体数
1	No. 6.5.150	1		
2	No. -5.25.75	1		

確認個体数 (上位 20 地点)



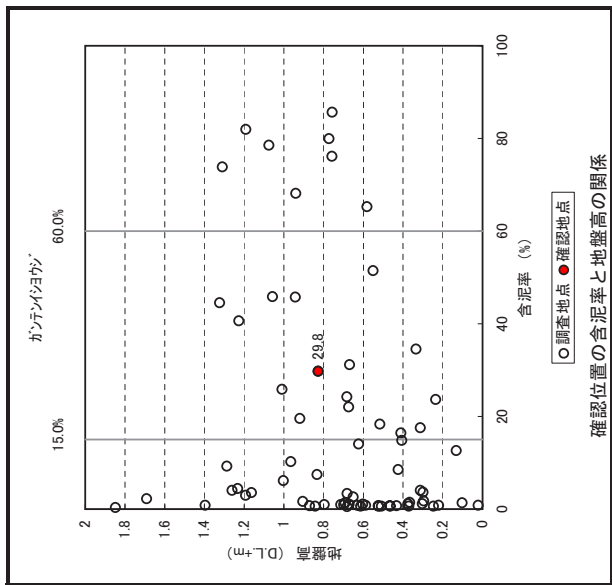
確認位置の含泥率と地盤高の関係

ヒモハゼの確認状況 (7月)
 <航空写真 撮影日：平成18年4月1日>

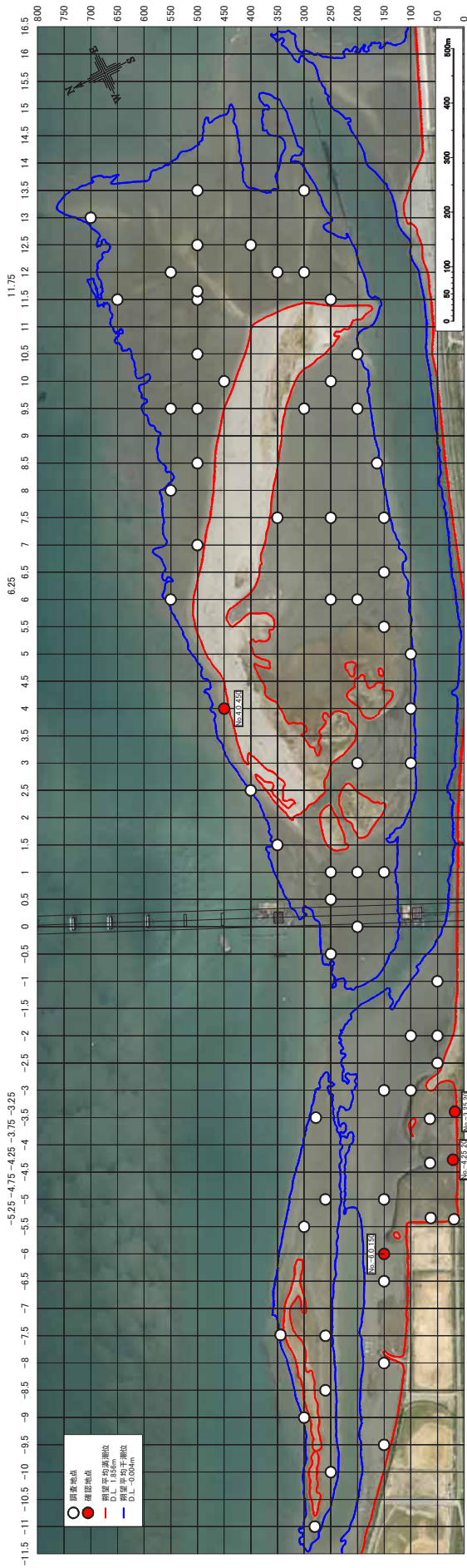


種名	ガンテンシヨウジ
目科名	スズキ目ハゼ科
学名	<i>Hippichthys penicillius</i>
確認状況	確認地点数：1地点 確認個体数：1個体
地盤高 (D.L. m)	0.827
含泥率 (%)	29.8
表層微細粒度 (μm) D50	190.2
分布概要	
紀伊半島から種子島、国外ではアラビア海、東部インド洋～西部太平洋に分布する。河口に隣接する海域および河口でみられるが、塩分濃度の比較的高い河口域下部に生息していることが多い。岩や流倒木等の物陰や海草の間にひそんでいる。徳島県内での産卵期は7～9月頃である。大潟の雄は育児のうに多数の卵を抱え、卵の孵化後も一定期間にわたって仔魚を保護する。	
県内の生息状況	
四国各県に分布する。徳島県では吉野川と旧吉野川、勝浦川、那賀川、榑川などの河口域で確認されている。生息数は多くはないが、県内河川で確認されているヨウジウオ科魚類4種(他にテングウジ、カワヨウジ、ヨウジウオ)の中ではもっとも普通に見られる。本種の県内河川における出現は3～11月と比較的長期に及ぶこと、若魚期上各成長段階の個体が確認されていることから、定着・再生産を行っている可能性が高い。他の3種の再生産については不明である。	
希少性	環境省RDB 徳島RDB WWF Japan
留意	—

確認個体数 (上位20地点)	
No.	1
地点名	No. - I.T. 0_280
個体数	1
地点名	
個体数	



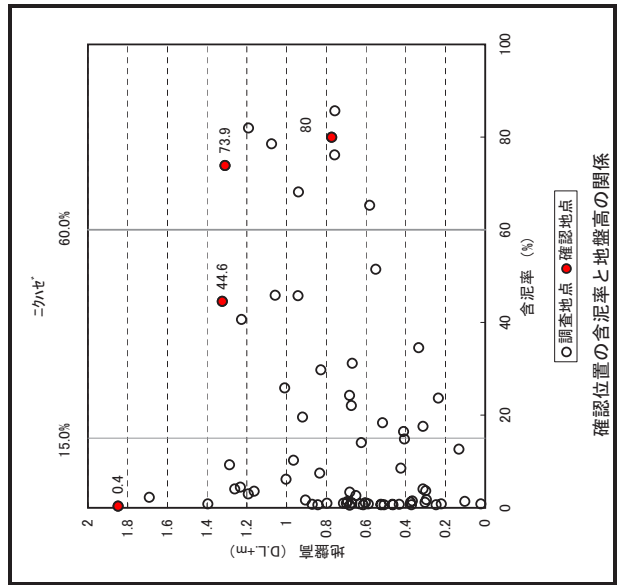
ガンテンシヨウジの確認状況 (7月)
 < 航空写真 撮影日：平成18年4月1日 >



種名	ニクハゼ
目科名	スズキ目ハゼ科
学名	<i>Gymnogobius septecanthus</i>
確認状況	確認地点数：4地点 確認個体数：4個体
地盤高 (D.L.m)	0.772
含泥率 (%)	0.4
表層微細粒度 (μm)	D50：23.5
分布概要	～ 1.848 ～ 80.0 ～ 320.5
確認状況及び確認位置の底質等	国内では北海道～九州、国外では沿海州、朝鮮半島、中国に分布する。波の穏やかな内湾の岸近くや河口域に生息し、砂泥質でアマモ類の繁茂水域を好む。群れで観察によると、ヤムシ類や甲殻類幼生等の動物プランクトンを食べる。著者の観察によると、驚くと砂に潜る行動をとる。産卵生体については不明であるが、産卵期は九州地方で2～5月と推定されている。1年で成熟し、産卵後は死亡する年魚と考えられている。
希少性	環境省RDB 徳島RDB WWF Japan
	— 留意 —

No.	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
1	No. 4. 0. 450	1			
2	No. -3. 25. 20	1			
3	No. -4. 25. 20	1			
4	No. -6. 0. 150	1			

確認個体数 (上位 2 0 地点)



ニクハゼの確認状況 (7月)
 <航空写真 撮影日：平成18年4月1日>